

免疫染色装置 ベンチマーク ULTRA PLUS の導入効果

◎山本 美奈¹⁾、川元 博之¹⁾
地方独立行政法人 下関市立市民病院¹⁾

病理診断において、免疫染色は欠かせないものとなっている。当院では、2010 年より 15 年間 ベンチマーク XT（ロシュ・ダイアグノティック株式会社、以下ロシュ社）を使用してきたが、不具合による修理不能となり、急遽更新することとなり、時間的制約もあり、測定原理が同じロシュ社の中から選定することとした。

ロシュ社では、現在 XT と同程度の機種は販売しておらず、スタンダードのベンチマーク GX か上位機種のベンチマーク ULTRA PLUS から選ぶ選択となり、当院の使用状況や導入費用、XT の操作の類似性からは GX が考えられた。一方、ULTRA PLUS は学会等での展示やカタログの見識しかなかったが、最新式であり、将来性より ULTRA PLUS を選択した。

今回、ULTRA PLUS と GX の性能比較、ULTRA PLUS を 1 年間使用してきた導入効果を報告する。

捺印標本作製が診断の一助となった悪性リンパ腫の1例

◎櫛山 因¹⁾、長田 英一¹⁾、田口 結花¹⁾、川上 恵津子¹⁾
山口県済生会山口総合病院¹⁾

【はじめに】

臨床的には胃癌の転移が疑われたが、捺印標本が悪性リンパ腫診断の一助となった症例を経験したので報告する。また、他症例の肉眼像を比較したので合わせて報告する。

【症例】

80歳代女性。20XX年2月全身倦怠感にて前医を受診し、貧血・フェリチン増加・LDH高値を指摘された。腹部エコーでは腹腔内リンパ節腫大、EGDでは幽門部前庭に隆起性病変が指摘され、可溶性IL-2R値は11100U/mlであった。当院血液内科紹介となった20XX年3月のCT検査では胃前庭部腫瘤と複数のリンパ節腫大を認めた。左鎖骨上窩リンパ節腫脹が目立ち、同部の生検が行われた。

【リンパ節肉眼像と捺印標本細胞像】

リンパ節は柔らかく均一な灰白色であり、胃癌のVirchow転移よりは悪性リンパ腫を疑う肉眼像であった。小型～中型リンパ球を背景に、核小体腫大と核形不整が目立つHodgkin細胞を思わせる異型細胞が散見され、明らかな上皮性細胞は認めなかった。

【組織診断】

当初は通常の院内組織診断の予定であったが、外注検査(悪性リンパ腫総合診断)に提出した。組織型はDLBCL with Hodgkin like cell transformationであり、DLBCLに準じた治療がなされた。リンパ節生検後に胃前庭部の検索も行われたが、転移を来たす病変ではなかった。

【肉眼像の比較】

悪性リンパ腫の断面は均一で瑞々しく、癌の転移は結節を一部に認めた。また前者は非常に柔らかいものが多く、後者はやや硬く感じられた。ある程度の傾向はみられたが肉眼像・硬さは参考程度にし、捺印標本細胞像を確認することが重要と思われた。

【まとめ】

臨床状況から胃癌の転移が疑われたが、リンパ節の断面肉眼像・捺印標本細胞像を主治医へ伝えることにより悪性リンパ腫総合診断を提案できた。今後も肉眼像の観察・捺印標本作製を継続し、臨床へ貢献できるようしたい。
連絡先 083-901-6166

手術室におけるホルマリン管理体制の見直しと安全教育への取り組み

◎横田 清美¹⁾

高知県高知市病院企業団立 高知医療センター¹⁾

はじめに

ホルマリンは病理組織検体の固定に必須であるが、その一方で、医薬用外劇物かつ特定化学物質であるため適切な管理が求められる。当院では昨年手術室においてホルマリンの紛失事例が発生し、管理体制の見直しが必要となった。今回、従来の管理で不十分な点について、どのような運用の見直しを行ったかを報告する。

方法

当院では2019年よりホルマリンの定数管理を実施している。しかし、提出検体数と在庫数不一致時の対応方法が明確ではなかったため、補充時に定数と在庫数が一致しない場合には速やかに所在確認を実施する運用ルールを新たに設けた。

結果

運用見直し後は、在庫不一致時にすぐに対応することでホルマリンの所在把握が早期にできるようになった。また、紛失時に医療安全と連携して対応したことで、病理検査室だけでなく手術室全体の管理意識の向上につながった。な

お、運用見直し後、ホルマリン所在不明事例は発生していない。

考察

ホルマリン管理では、不一致発生時に迅速に対応する運用体制が重要であると考えられた。また、当院では雇入時化学物質教育研修を実施し、医師や看護師などに対して安全教育を行っている。管理体制の整備と教育の両立が安全管理強化に重要であると考えられた。

結語

今回は手術室のホルマリン管理について、定数管理の運用方法を見直したことで、在庫状況の把握と紛失防止につながった。今後も手術室以外のホルマリン配置も含め、継続的な運用評価と安全教育を行い、安全管理体制の強化を図りたい。

連絡先：088-837-3000